

令和4年度 川崎市下水道事業会計決算概況

1 総括事項

下水道は、市民の快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全及び雨水排除等のために欠くことのできない都市の基幹施設であり、令和4年度も引き続き、本市の重要施策の一つとして、事業に取り組んでまいりました。

事業面では、「川崎市上下水道ビジョン」、「川崎市上下水道事業中期計画」に基づき、令和元年東日本台風を踏まえた浸水への対策や大規模地震発生時においても下水道機能を損なわないための地震対策等、下水道が抱える課題を解決するための様々な取組を確実に進めてまいりました。

一方、財政面では、燃料価格の高騰等により電気料金が増大したものの、下水道経営の健全化を図るため、引き続き事業運営の効率化に努めてきたこと等により、当年度純利益を計上することができましたが、単年度資金については、資金不足額が生じました。なお、過去の建設投資の影響により、未だ企業債残高は高い水準にあり、依然として厳しい財政状況にあります。

今後も、下水道施設の更新等に伴う建設改良費が必要となりますので、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

2 業務の状況

令和4年度末における処理面積は1万721ha、処理人口は153万4,852人で、人口普及率は99.5%に達しています。

また、有収水量は1億5,163万7,201m³で、下水道使用料収入は税抜きで216億8,283万9,258円です。

3 建設及び改良工事

令和4年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、216億4,964万8,302円となっております。

また、146億4,699万3,600円を令和5年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、管きょについては、浸水リスクの高い三沢川地区等で浸水被害軽減に向けた浸水対策工事を施行したほか、令和元年東日本台風による浸水被害を踏まえた対策工事を施行しました。また、大規模地震発生時にも、下水道機能を損なうことのないように、重要な管きょのうち、避難所や重要な医療機関と水処理センターとを結ぶ管きょの地震対策工事を施行しました。

ポンプ場については、老朽化の進む大師河原ポンプ場の再構築に向けた建設工事を施行したほか、各ポンプ場で老朽化した設備の更新工事を施行しました。

水処理センターについては、等々力水処理センターで高度処理化に向けた建設工事を施行したほか、各水処理センターで老朽化した設備の更新工事を施行しました。

4 経理の状況

収益的収支は、事業収益440億995万8,361円から事業費用407億1,404万4,316円を差し引いた収支差引32億9,591万4,045円となり、消費税及び地方消費税を除いた収支差引では、20億6,800万879円の純利益となりました。

また、資本的収支は、収入総額329億3,490万5,850円から支出総額548億5,900万5,696円を差し引いた収支差引219億2,409万9,846円の不足となりましたが、これについては、損益勘定留保資金等で補填しました。

問合せ先
川崎市上下水道局総務部財務課 石島
電話：044-200-2863

令和 4 年度川崎市下水道事業会計決算総括表

[収益的収支]

(単位 円)

会 計 名		収 入 (税 込)	支 出 (税 込)	差 引 (税 込)	税抜処理後純損益	前年度繰越利益 剰余金	その他未処分利益 剰余金変動額	当年度未処分 利益剰余金
下水道事業会計	予算現額	45,462,527,000	43,150,303,000	2,312,224,000	960,401,000	0	0	960,401,000
	決 算 額	44,009,958,361	40,714,044,316	3,295,914,045	2,068,000,879	0	3,302,506,563	5,370,507,442
	執 行 率	96.8%	94.4%	—	—	—	—	—

[資本的収支]

(単位 円)

会 計 名	収 入 (税 込)	支 出 (税 込)	差 引 (税 込)	補 填 財 源 等				再差引	
				繰越工事資金	損益勘定留保資金	前年度財源充当額	その他		
下水道事業会計	予算現額	48,639,286,000	70,635,200,000	△ 21,995,914,000	0	20,666,303,000	0	1,329,611,000	0
	決 算 額	32,934,905,850	54,859,005,696	△ 21,924,099,846	0	17,403,937,887	0	4,520,161,959	0
	執 行 率	67.7%	77.7%	—	—	—	—	—	—

令和4年度 下水道事業会計決算(見込み)のポイント (税込み)

		令和4年度決算	令和3年度決算	増△減額	増△減率	備 考
1	収益的収入	440億900万円	437億7,500万円	2億3,400万円	0.5%	
主な収入	下水道使用料	238億5,000万円	240億7,100万円	△2億2,100万円	△0.9%	主に小口の使用水量の減
	一般会計繰入金	117億7,500万円	113億6,900万円	4億 600万円	3.6%	雨水処理負担金の増
	長期前受金戻入	73億1,700万円	74億1,500万円	△9,800万円	△1.3%	国庫補助金戻入の減
2	収益的支出	407億1,400万円	393億7,200万円	13億4,200万円	3.4%	
主な支出	維持管理費	147億 400万円	129億5,300万円	17億5,100万円	13.5%	処理場費(動力費)の増
	資本費	257億9,300万円	263億 700万円	△5億1,400万円	△2.0%	減価償却費及び企業債利息の減
3	純損益(税抜き)	20億6,800万円 (純利益)	33億 200万円 (純利益)	△12億3,400万円	△37.4%	
4	資本的収入	329億3,400万円	324億 200万円	5億3,200万円	1.6%	
主な収入	国庫補助金	71億9,000万円	60億3,100万円	11億5,900万円	19.2%	前年度繰越額の増及び翌年度繰越額の減
	企業債	243億7,600万円	247億4,200万円	△3億6,600万円	△1.5%	建設企業債の増、借換企業債及び資本費平準化債の減
	一般会計出資金	2億6,600万円	4億1,300万円	△1億4,700万円	△35.6%	
5	資本的支出	548億5,900万円	567億1,500万円	△18億5,600万円	△3.3%	
主な支出	建設改良費	216億4,900万円	190億7,800万円	25億7,100万円	13.5%	工事請負費の増
	企業債償還金	311億3,100万円	346億6,400万円	△35億3,300万円	△10.2%	
6	資金不足比率	— (資金不足となっていない)	— (資金不足となっていない)			財政健全化法における経営健全化基準 20%

※ 金額については百万円未満を切り捨て。

※ 増減率については小数点第2位を四捨五入。